

文学部 外国語学科 フランス語専攻

ディプロマ・ポリシー

1. 卒業要件

専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（フランス語）の学位を授与する。

2. 修得する能力

- (1) フランス語に関する語学的知識を修得し、実践的な運用能力を身に付けている。
- (2) フランス語の基礎的な運用力を創造的な表現活動へと発展させることのできる、コミュニケーション能力を備えている。
- (3) 国際化・情報化する世界の中で自由に活躍することのできる知的行動力を身に付けている。

3. 卒業後の進路

運輸・旅行関連、マスコミ・情報関連、ファッション関連の各業界及びそれらの外資系企業、並びに通訳、翻訳家及び日本語教師等への就職が期待される。

カリキュラム・ポリシー

1. 体系（構成）

- (1) 外国語学科フランス語専攻の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
 - ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
 - ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
 - ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
- (2) 1 年次のフランス語基礎部門では、フランス語基礎文法 A・B、フランス語基礎会話 I・II、フランス語基礎総合 I・II・III、フランス文化基礎演習 A・B を学ぶ。
- (3) 2 年次のフランス語応用部門では、各自の志向に沿って 3 つのコースに分かれる。
 - ①フランス語コミュニケーション集中コースでは、総合的なコミュニケーション能力を集中的に養成する。
 - ②フランス語コミュニケーションコースでは、コミュニケーション能力に力点を

置きつつ、文化も含めて総合的にフランス語を習得する。

③フランス文化コースでは、フランス語の運用能力の基礎を高めつつ、主にテキスト読解を中心としてフランス文化を学ぶ。

(4) 3年次では、フランス語アトリエにおいて、各教員の専門や個性を生かして、様々な角度からフランス語のテクニックを、少人数クラスにおいて専門的に学ぶ。

(5) 4年次には、当該年度に開設されている演習の中から1つを選択し、教員の指導のもとに4年間の集大成となる研究学修を行う。

2. 特色

(1) 少人数クラス編成によりフランス語の効果的な修得を目指す。

(2) 話し言葉と書き言葉のバランスがとれた言語学修を行う。

(3) コース選択とアラカルト方式を並立させた科目履修により個人の能力と興味に適した学修指導を実現する。

(4) 複数のネイティブ教師による実践的なコミュニケーション指導を行う。

(5) 学生が自ら学修計画を立て、多様な課題に対して積極的に取り組む、主体的な学びを実現する教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔フランス語運用能力を養成する科目〕

フランス語による発話や文章の内容を正しく理解したり、自分の考えや状況に応じた表現を適切に相手に伝達することができ、語彙・知識力、文法力、読解力、作文力等をバランスよく身に付ける。

〔コミュニケーション能力を養成する科目〕

他国の人たちと意思疎通を行うために十分な言語力を備え、異なる価値観を越えて関係を構築し、その関わりを通して、自発的に新たな価値観を創造していく実践力を身に付ける。

〔文化の多様性に対する理解力と思考力を養成する科目〕

フランス語圏各地に固有の文化があることを発見し、その価値を正しく理解し考察する。文化的表現の多様性を認め、グローバル化が進む世界の中で多文化共生の課題に向き合う。

〔専門総合化能力を養成する科目〕

これまでに学んできたフランス語、フランス語圏の文化、文学、歴史、社会等の専門科目の知識を統合、発展させて人・モノ・情報が地球規模で流動する社会の中でどのような能力が求められるのかを見極める。質の高い語学力を活用して、異なる価値観を持つ人たちとコミュニケーションを行い、関わりを通して社会やビジネスを動かす発信力をもつ。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

外国語学科フランス語専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教

育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 新しい言語にチャレンジする意欲のある者。
- (3) フランス語とフランス語圏の文化に高い関心をもつ者。
- (4) コミュニケーションを通して他者の存在を発見し相互理解を志向する多文化的想像力をもつ者。

2. 選抜方法

外国語学科フランス語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、公募制推薦入試、併設高校からの推薦入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、フランス語専攻独自の指定先として、フランス語又は英語以外の外国語を正課授業として開講する高校からの推薦を受け入れ、フランス語専攻での学びに強い意欲と理解をもった者を評価する。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。